


社会福祉系大学院留学生の研究 と研究指導について考える

—国際比較研究の視点から—

同志社大学 埋橋孝文

報告の内容

1. 自己紹介－研究の足跡を振り返って
 2. 博士学位取得者名
 3. 一般的な研究指導方針
 4. やや個別的な研究指導方針
 5. 日中韓3か国の社会保障・福祉の「比較可能性」(comparability)の拡大
 6. 課程博士論文作成で重要なこと
 7. 指導教員および留学院生が心がけるべきこと
- 

自己紹介－ 研究の足跡 を振り返っ て（1）

1) 国際比較研究

『現代福祉国家の国際比較－日本モデルの位置づけと展望－』（日本評論社，1997年），

『福祉政策の国際動向と日本の選択－ポスト「三つの世界」論』（法律文化社，2011年）

2) 子どもの貧困と生活困窮者自立支援

『子どもの貧困／不利／困難を考えるⅠ，Ⅱ，Ⅲ』（共編著，ミネルヴァ書房，2015，2015，2019年）

『貧困と生活困窮者支援－ソーシャルワークの新展開』（埋橋孝文＋同志社大学社会福祉教育・研究支援センター編，法律文化社，2018年），

『貧困と就労自立支援再考－経済給付とサービス給付』（埋橋孝文＋同志社大学社会福祉教育・研究支援センター編，法律文化社，2019年）

自己紹介－ 研究の足跡 を振り返っ て（2）

3) 社会政策における「政策論」の豊富 化と緻密化をめざして

『どうする日本の福祉政策』（編著，ミネルヴァ書房，2020年）

シリーズ「今，社会政策に何が可能か」の第1巻，

第2巻は 櫻井純理編『どうする日本の労働政策』

第3巻は落合恵美子編『どうする日本の家族政策』

課程博士学位取得者（埋橋主査，2005年～2019年）

日本3人

－山村りつ（日本大学），石田慎二（帝塚山大学），田中弘美（武庫川女子大学）

韓国6人

－崔銀珠（福山平成大学），李宣英（県立広島大学），任貞美（韓国保健社会研究院），李玲珠（韓国エリム総合福祉センター），朴 蕙彬（関西福祉科学大学），任セア（東洋大学）

中国3人

－徐榮（華東理工大学），郭芳（同志社大学），史邁（中国・清華大学）

※ 計12人中9人が博士論文をもとにした単著を刊行

※ 計12人中8人が日本で就職，4人が母国で就職

※ 社会福祉学会奨励賞（単著）2名，（論文）1名，社会政策学会奨励賞1名

一般的な研究指導方針 （博士後期課程在学年数3年～6年，平均4.5年）

・昔，博士学位は「足の裏についた飯粒」と言われたことがあるが，今は昔の話である

・研究者養成の本旨－自分のコピー人間をつくることではない

・「個別指導」は原則しない，1年の間に5－6回ある院ゼミでの報告と指導が真剣勝負の場で，それを積み重ねて博士論文へ．⇒peer support, peer review, peer pressure

・研究に必要なVW（山中伸弥）

・博士論文は可能な限り出版へ

やや個別的な指導方針

1. テーマの設定について

- A 日本の社会保障, 福祉
- B 日中, 日韓の国際比較
- C 中国, 韓国の社会保障, 福祉

基本的にはABCのどれでも可, ただし, それぞれについて留意事項あり.

- A なぜ日本なのか, 母国との関係についてよく考えて執筆すること
- B 国際比較の方法論を押さえること, 2つを並列的に「叙述する」(descriptive) のではなくて, あらかじめ設定した分析フレームワークに沿って「分析する」(analytical) こと
- C 母国のことをなぜ外国である日本の地で研究するのか, それをよく考えて執筆すること

日中韓3か国の社会保障・福祉の「比較可能性」(comparability) の拡大※

韓国－1988年年金制度, 1989年皆(医療)保険: 1990年代に比較可能性の確立

中国－2010年代に社会保険制度による社会保障制度の確立, 都市・農村における最低生活保障制度の整備, 比較可能性の確立

※埋橋・任セア・楊慧敏「日・中・韓の生活保護を国際比較する」, 『イントレコウク』1095号, 2019年11・12月

ただし, 時間差は残る. ⇒国際比較の際に留意すること. また, 「出羽の守」を避けること.

(課程) 博士論文作成で重要なこと (その1)

1) タテ糸が通っているか。Consistency matters !

序章の研究の目的と方法, 先行研究の吟味, 本論の構成, 調査, 結論それぞれが首尾一貫していること。バラバラの論文はダメ。

2) 論文構成は2部構成まで (例外的には3部構成も考えられるが4部構成は寄せ集め論文集であることを示しており絶対ダメ)

3) 誤解の多い「先行研究の検討」 - 「勉強しました」タイプの紹介に終わっているのが多い。先行研究の批判的吟味によって自分の研究のオリジナルな部分を引き出すことが肝要。

⇒任貞美「高齢者虐待の定義および概念を確立するための研究課題の検討」『社会福祉学』57 (2) 2016

(課程) 博士論文作成で重要なこと (その2)

4) **Graphic Abstract**の作成が有効 ⇒ 論文の構成と内容と構造を端的に示す。

5) **白い論文と黒い論文** - 日本語の場合, 論理はひらがなで展開される。漢字を連ねても事実, 事項, 概念が豊富になるが「論理」自体は生まれない。とくに, descriptiveなものから analyticalな論文に進化させる際にはひらがなによる論理の展開が必要不可欠である。また, 接続詞を多用し, 長い文は短い文に分けること。

指導教員および留学院生が心がけるべきこと

指導教員は

①無償の雑用，下請け作業はさせない。常に教育的配慮を忘れずに、また、自分の立場や主張に近い院生を依怙贖賈することは絶対に避けなければならない

②院生の母国を訪問し，社会，政治，経済，文化，歴史の動向を自分の目と耳で確かめ，肌で感じること。

※埋橋の場合：中国訪問35回（うち台湾6回，香港5回），韓国訪問24回（資料1参照）

留学院生は

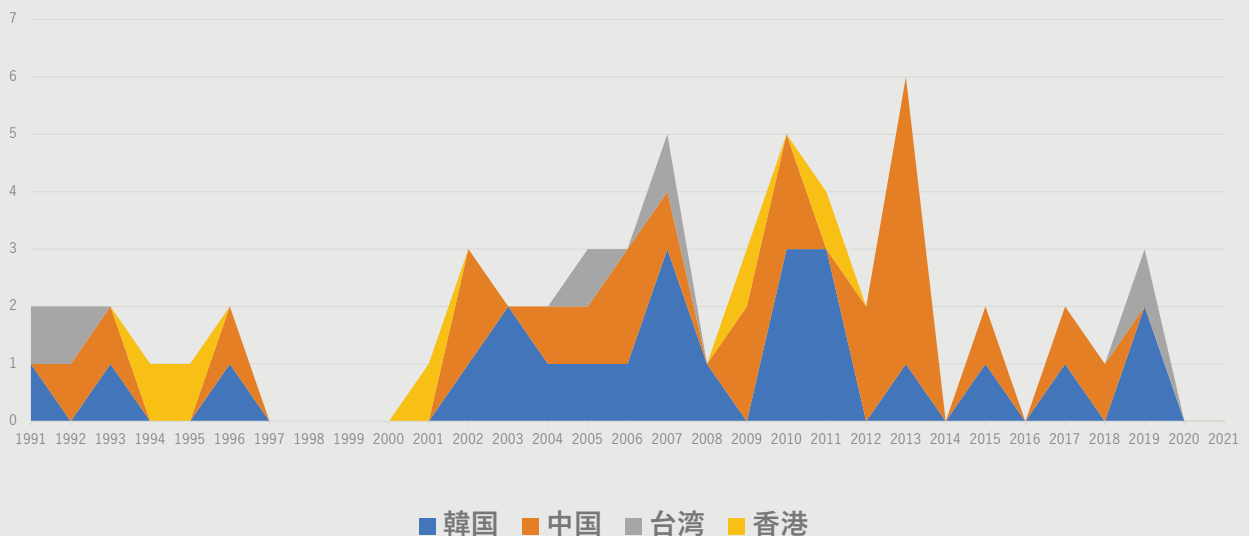
①日本でのインタビューの経験は重要。日本人学生に話さないことも留学生には話すことがある（于洋城西大学副学長の例）。

②日本語チェックをしてくれる日本人をもつようにすること。

③論文タイトル，サブタイトルは簡潔に。

④ゼミや学会での議論には「研ぎ澄まされた感覚」をもって参加し発言すること。

資料1 訪問回数（1991年～2019年）



資料2 課程博士号取得者数(1993～2018年)

(同志社大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻)

